

# 高齢者福祉施設の消防訓練に関する アンケート調査の分析

辻本研究室

4109054 榊原 菜未

## 目次

1. 研究の背景と目的	3
1. 1 研究の背景	3
1. 1. 1 高齢者福祉	3
1. 1. 2 高齢者福祉施設での火災事例	5
1. 2 研究の目的	5
2. 研究の方法	5
3. アンケート対象施設での訓練事例	6
3. 1 目的	6
3. 2 訓練開始時刻	6
3. 3 訓練内容	7
3. 3. 1 施設 A	7
3. 3. 2 施設 B	8
3. 4 問題点	8
4. アンケート調査	9
4. 1 目的	9
4. 2 方法	9
4. 3 アンケートの内容	9
4. 4 結果	10
4. 4. 1 アンケートの回答者・施設について	10
4. 4. 2 避難訓練について	11
4. 4. 3 夜間の職員体制について	12
4. 5 施設の階数とアンケート結果の関係	14
4. 5. 1 消防設備・避難器具の設置状況	14
4. 5. 2 電子解錠システム設置の有無と防災意識の関係	18
4. 5. 3 $\chi^2$ 検定	19
4. 6 同じ質問に対する回答結果	22
4. 6. 1 同じ職員が同じ質問に答えた回答	23
4. 6. 2 同じ施設で異なる職員が答えた回答	24
5. まとめ	24
6. アンケート	25
6. 1 アンケート票	25
6. 1. 1 アンケート A	25
6. 1. 2 アンケート B	30
6. 2 アンケート回答結果	32
7. 参考文献	44

## 1. 研究の背景と目的

### 1. 1 研究の背景

#### 1. 1. 1 高齢者福祉

##### (1) 介護保険制度

介護保険制度では、寝たきりや認知症等で常時介護を必要とする状態（要介護状態）になった場合や、家事や身支度等の日常生活に支援が必要であり、特に介護予防サービスが効果的な状態（要支援状態）になった場合に、介護サービスを受けることができる。この要介護状態や要支援状態にあるかどうか、その中でどの程度かの判定を行うのが要支援認定・要介護認定であり、保険者である市町村に設置される介護認定審査会において判定される。

市町村の認定調査員による心身の状況調査（認定調査）及び主治医意見書に基づくコンピュータ判定（一次判定）を行い、要介護認定等基準時間を算出し、その時間と認知症加算の合計を基に要支援1～要介護5に判定される。（表 1.1）その後、保健・医療・福祉の学識経験者により構成される介護認定審査会により、一次判定結果、主治医意見書等に基づき審査判定（二次判定）を行う。

表 1.1 介護認定の基準

要支援1	要介護認定等基準時間が25分以上32分未満またはこれに相当すると認められる状態
要支援2	要介護認定等基準時間が32分以上55分未満またはこれに相当すると認められる状態
要介護1	
要介護2	要介護認定等基準時間が50分以上70分未満またはこれに相当すると認められる状態
要介護3	要介護認定等基準時間が70分以上90分未満またはこれに相当すると認められる状態
要介護4	要介護認定等基準時間が90分以上110分未満またはこれに相当すると認められる状態
要介護5	要介護認定等基準時間が110分以上またはこれに相当すると認められる状態

要支援、要介護の状態はおおむね次のような状態像である。（表 1.2）

表 1.2 要支援・要介護の状態像

自立 (非該当)	歩行や起き上がりなどの日常生活上の基本的動作を自分で行うことが可能であり、かつ、薬の内服、電話の利用などの手段的日常生活動作を行う能力もある状態
要支援状態	日常生活上の基本的動作については、ほぼ自分で行うことが可能であるが、日常生活動作の介助や現在の状態の防止により要介護状態となることの予防に資するよう手段的日常生活動作について何らかの支援を要する状態
要介護状態	日常生活上の基本的動作についても、自分で行うことが困難であり、何らかの介護を要する状態

要介護状態については、おおむね次のような状態像である。（表 1.3）

表 1.3 要介護の状態像

要介護1	要支援状態から、手段的日常生活動作を行う能力がさらに低下し、部分的な介護が必要となる状態
要介護2	要介護1の状態に加え、日常生活動作についても部分的な介護が必要となる状態
要介護3	要介護2の状態と比較して、日常生活動作及び手段的日常生活動作の両方の観点からも著しく低下し、ほぼ全面的な介護が必要となる状態
要介護4	要介護3の状態に加え、さらに動作能力が低下し、介護なしには日常生活を営むことが困難となる状態
要介護5	要介護4の状態よりさらに動作能力が低下しており、介護なしには日常生活を営むことがほぼ不可能な状態

## (2) 施設の種類

高齢者向けの施設や住宅には、その目的や提供するサービスの違いなどによって様々なものがある。これらは、福祉施策の観点から厚生労働省において普及を進めている特別養護老人ホームなどの施設と、住宅施策の観点から国土交通省において普及を進めている高齢者向け賃貸住宅がある。ここでは、厚生労働省において普及を進めている高齢者福祉施設の種類を挙げる。

### ・特別養護老人ホーム

65歳以上の者であって、身体上又は精神上著しい障害があるために常時の介護を必要とし、かつ、居宅においても常時の介護を受けることが困難な高齢者に対して、入所サービスを提供する施設。要介護者（要介護1以上の方）が対象である。

### ・老人保健施設

要介護者に対し、在宅復帰を目指して、看護、医学的管理下での介護、機能訓練等の必要な医療、日常生活上の世話をを行うことを目的とした施設。要介護者（要介護1以上の方）が対象である。

### ・軽費老人ホーム（ケアハウス、A型、B型）

低額な料金で、家庭環境、住宅事情等の理由により居宅において生活することが困難な老人を入所させ、日常生活に必要な便宜を供与する施設。軽費老人ホームには、生活相談、入浴サービス、食事サービスの提供を行うとともに、車いすでの生活にも配慮した構造を有する「ケアハウス」を主として、他に食事の提供や日常生活に必要な便宜を供与する「A型」、自炊が原則の「B型」がある。

### ・養護老人ホーム

65歳以上の者であって、環境上の理由及び経済的理由により居宅での生活が困難な者を入所させ、社会復帰の促進や自立した生活を送ることができるよう必要な指導及び訓練等を行う施設。

### ・有料老人ホーム

老人を入居させ、入浴・排せつ・食事の介護、食事の提供、洗濯・掃除等の家事、健康管理を提供することを目的とする施設。有料老人ホームには、ホームの職員が介護保険のサービスを提供する「介護付」、ホームは介護サービスを提供せず、入居者が要介護状態となった場合は入居者自らが外部の介護サービス事業者と契約して介護サービスを利用する「住宅型」、ホームは介護サービスを提供せず、介護が必要となった場合には契約を解除して退去する「健康型」がある。

### ・認知症高齢者グループホーム

認知症の高齢者が、小規模な生活の場（1単位5人～9人の共同居住形態）に居住し、食事の支度、掃除、洗濯等をグループホームの職員と共同で行い、家庭的で落ち着いた雰囲気の中で生活を送ることを目的とする施設。要支援者（要支援2のみ）、要介護者（要介護1以上の方）が対象である。

### 1. 1. 2 高齢者福祉施設での火災事例

1987年に起きた東京都東村山市の特別養護老人ホーム松寿園の悲惨な火災を契機に、スプリンクラーの設置、夜間の人員配置などが義務づけられてきた。しかし、その後も、2006年に長崎のグループホームで入居者7人が、2010年には札幌のグループホームでも入居者7人が死亡した火災が発生し、高齢者福祉施設で死傷者が発生する火災が後を絶たない。(表 1.4)

表 1.4 高齢者福祉施設の火災事例

出火年月日	出火場所	事業所名	死者数	負傷者数	出火原因
昭和62年 6月 6日	東京都東村山市	昭青会松寿園	17	25	放火の疑い
平成18年 1月 8日	長崎県大村市	やすらぎの里さくら館	7	3	マッチ・ライター
平成21年 3月 19日	群馬県渋川市	静養ホームたまゆら	10	1	不明
平成22年 3月 13日	北海道札幌市	グループホームみらいとんでん	7	2	ストーブ

### 1. 2 研究の目的

本研究では、東京都における高齢者福祉施設を対象とし、防火対策の現状をアンケートを通じて調べ、施設の階数との関係性について検討を行うことを目的とする。

### 2. 研究の方法

2つの高齢者福祉施設で自衛消防訓練の状況を把握し、東京都社会福祉協議会に参加している88の施設を対象にアンケート調査の結果を分析した。

### 3. アンケート対象施設での訓練事例

#### 3. 1 目的

アンケート調査を行うにあたって対象となる高齢者福祉施設で、実際どのような訓練が行われているのかを把握する。(表 3.1)

表 3.1 見学先の施設概要

	施設A	施設B
施設の種類	認知症高齢者グループホーム	特別養護老人ホーム
開設年	平成21年	平成17年
入居者数	18名(要介護度平均 2.6)	56名(要介護度平均 4.2)
職員数	昼間:6人 夜間:2人	昼間:37人 夜間:5人
建物の概要	延べ床面積 671.83㎡ 鉄骨造2階建て	延べ床面積 2895.19㎡ 鉄筋コンクリート造3階建て

#### 3. 2 訓練開始時刻

・施設 A

2012年7月26日 14時

・施設 B

2012年8月16日 14時

### 3. 3 訓練内容

#### 3. 3. 1 施設 A

施設 A では、入居者役職員 2 名がリビングダイニングにいる状態で、2 階のキッチンより出火する想定だった。訓練参加者は職員 4 名で、うち 2 人が入居者役を務めていた。入居者役の職員を 2 階から階段を利用し、地上へ避難誘導していた。(図 3.1)

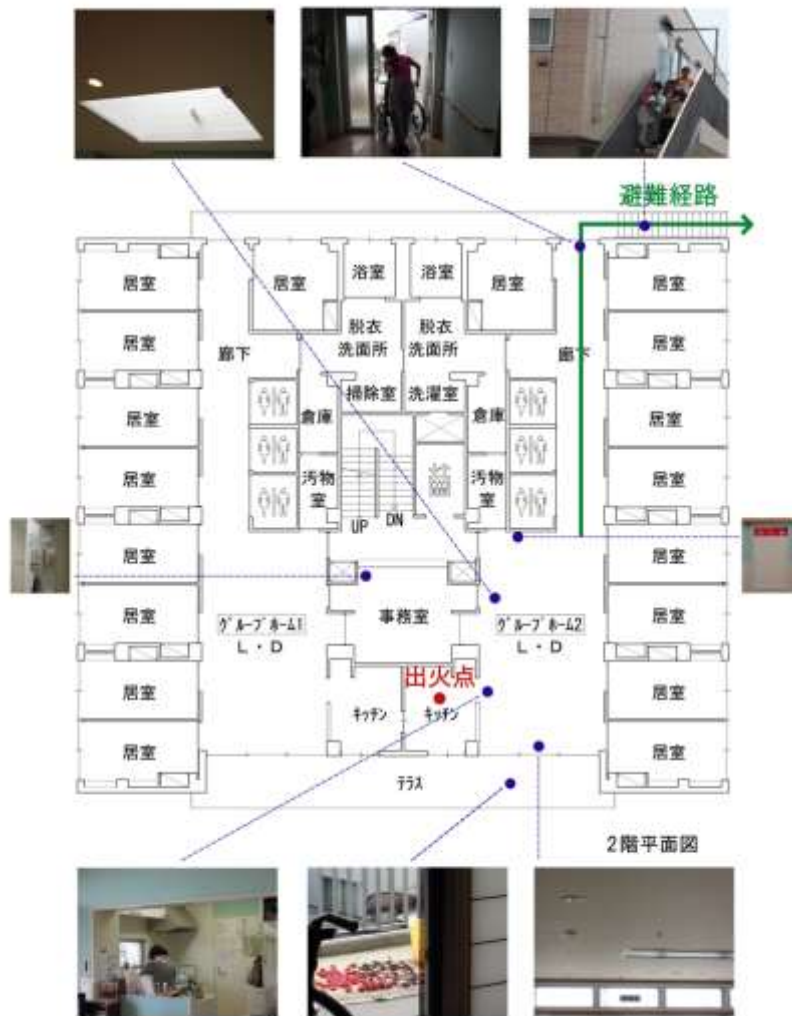


図 3.1 施設 A 2 階平面図

### 3. 2. 2 施設 B

施設 B では 2 階のキッチンからの出火を想定していた。出火したユニットの入居者 10 名を、バルコニーを通過して隣接するユニットへ避難誘導していた。(図 3.2)

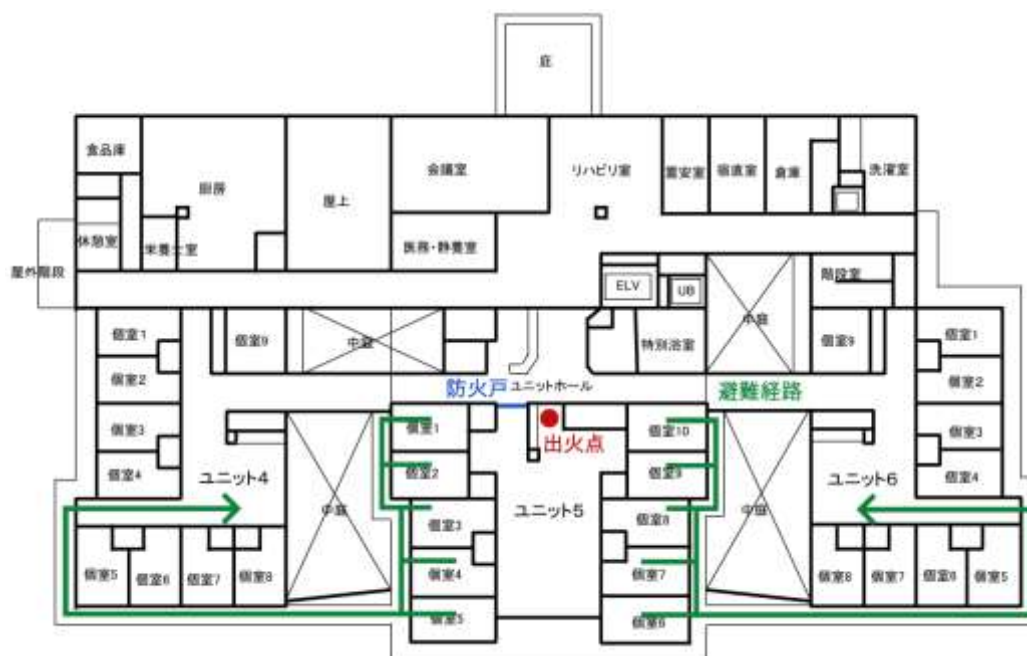


図 3.2 施設 B 2 階平面図

### 3. 4 問題点

施設 A の訓練では、出火から避難終了まで 5 分 47 秒、施設 B では 16 分 50 秒かかっていた。一般的な高齢者福祉施設の避難限界時間の目安は 6 分であり、比較すると、施設 B では大幅に避難限界時間を超えている。施設 A では階段が、施設 B では居室内の家具が、障害となり避難誘導に時間がかかっていた。

訓練中では、施設 A では排煙窓が使用されていない、施設 B では防火戸が閉まらないといった消防設備が上手く使用できていない点が目立った。その他、施設 A では避難終了後に入居者の人数確認がされていない、施設 B では出火点として想定した場所を通るといった問題点もあった。

#### 4. アンケート調査

##### 4. 1 目的

火災発生時の避難において施設が抱えている問題を明らかにする。

##### 4. 2 方法

特定非営利活動法人日本防火技術者協会が行った「高齢者福祉施設の防災訓練に関する調査」の回答を利用した。配布先は、特定非営利活動法人日本防火技術者協会主催の研修会参加者と表-1の施設職員の全部で88件である。配布先の施設の種類の、特別養護老人ホームが80件、養護老人ホーム5件、軽費老人ホームと認知症高齢者グループホームとデイサービスセンターがそれぞれ1件である。

##### 4. 3 アンケートの内容

施設に関するアンケートAと消防訓練に関するアンケートBの2種類がある。(表4.1)詳細は、6.1アンケート票に示す。

表 4.1 アンケート概要

	アンケートA	アンケートB
対象	東京都社会福祉協議会に参加している高齢者福祉施設	
配布先	研修会参加者と見学先施設(全88件)	
回収率	85%(75件)	77%(68件)
内容	I 施設について(10項目)/II アンケートの回答者について(10項目)/III 消防隊の救助や消火の容易性について(4項目)/IV 初期段階における火災の拡大の遅延について(7項目)/V 在館者の避難安全について(39項目)/VI 煙や火炎への対応について(14項目)/VII 日常管理について(8項目)	I アンケートの回答者について(9項目)/II 施設での防火・避難について(14項目)

## 4. 4 結果

詳細は、6. 2 アンケート回答結果に示す。

### 4. 4. 1 アンケートの回答者・施設について

アンケート A は特別養護老人ホーム 70 件、養護老人ホーム 3 件、軽費老人ホーム 1 件、認知症高齢者グループホーム 1 件、アンケート B は、特別養護老人ホーム 63 件、養護老人ホーム 4 件、軽費老人ホーム 1 件の回答があった。各アンケートの回答者の属性を示す。(表 4.2)

表 4.2 アンケートの回答者の属性

	アンケートA	アンケートB
施設責任者兼防火管理者・責任者	7人(9%)	4人(6%)
施設責任者	6人(8%)	3人(4%)
防火管理者・責任者	37人(50%)	27人(40%)
施設職員	21人(28%)	34人(50%)
その他	3人(4%)	-
空欄	1人(1%)	-

建物の階数・そのうち居室として利用している階数・入居者数・入居者の介護度平均・昼間の職員数・夜間の職員数について示す。(図 4.1)

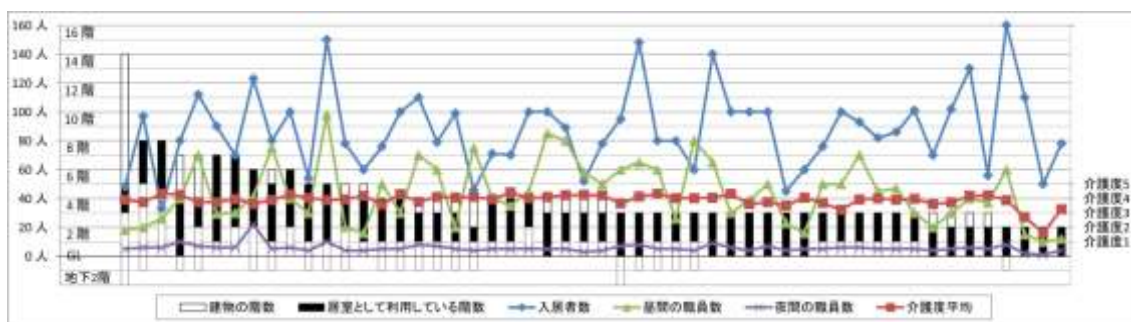


図 4.1 アンケート A 回答施設の概要

要介護度の平均は 3.9 である。昼間の職員一人あたりの入居者数は 1.9 人であるのに対し、夜間の職員一人あたりの入居者数は 15 人と多い。併設施設は、デイサービスセンターなどの福祉関連施設が多い。左から 2 つの施設では住宅が併設されている。

#### 4. 4. 2 避難訓練について

3. 4で挙げた自衛消防訓練の問題点からアンケート A の3つの質問の回答結果に注目した。(表 4.3・図 4.2) VII-4-2 と VIII-2-8 からは、ほとんどの施設で避難誘導できるように室内に障害物が放置されておらず、戸の閉鎖を妨げるものが置かれていない状態であると回答しているが、施設 B の防火戸が閉まらず、居室によっては家具が多く避難に時間がかかっていた状況から疑問である。IX-13-1 からは 17%の施設で、避難後に利用者や職員の人数の確認方法が決められておらず、認識不足がうかがえる。

表 4.3 訓練の問題点に関連するアンケート内容

アンケートA	質問内容
VII-4-1.	職員が迅速に居室に入って避難誘導・救助できるように、室内に障害物が放置されないようになっていますか
VIII-2-8.	設置されている戸の閉鎖を妨げるものが置かれなくなっていますか
IX-13-1.	(避難後の)利用者や職員が全員そろっていることの確認方法は決めていますか

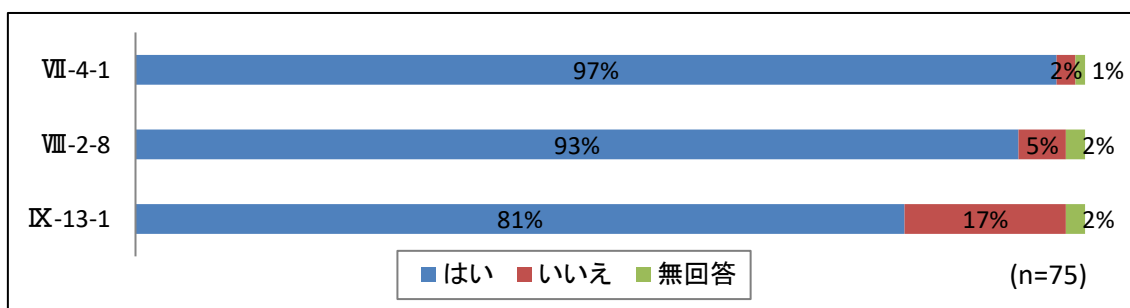


図 4.2 訓練の問題点に関連するアンケート結果

施設 A の訓練では、職員のみが訓練に参加していたが、アンケート B では 34%の方が「職員だけの訓練」に参加したことがあるという回答であった。(図 4.3) 訓練で「入所者の参加が少ない・いない」ことについて 37%の方が問題だと思っている。(図 4.4)

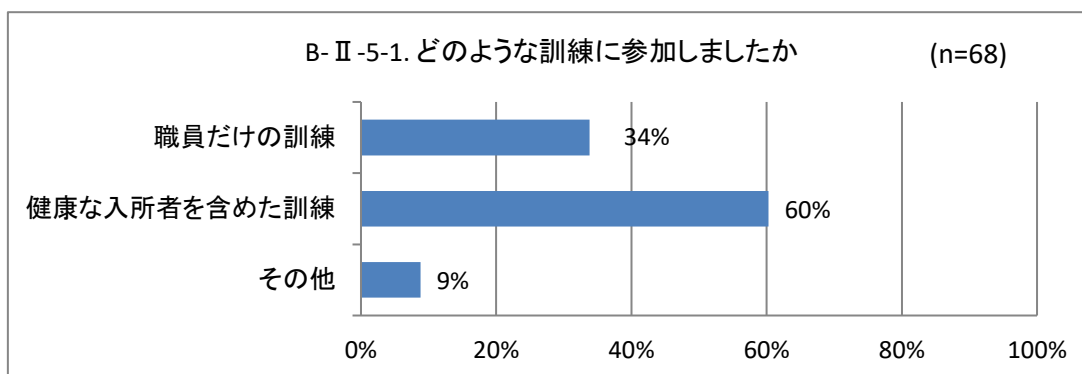


図 4.3 アンケート B II-5-1 結果

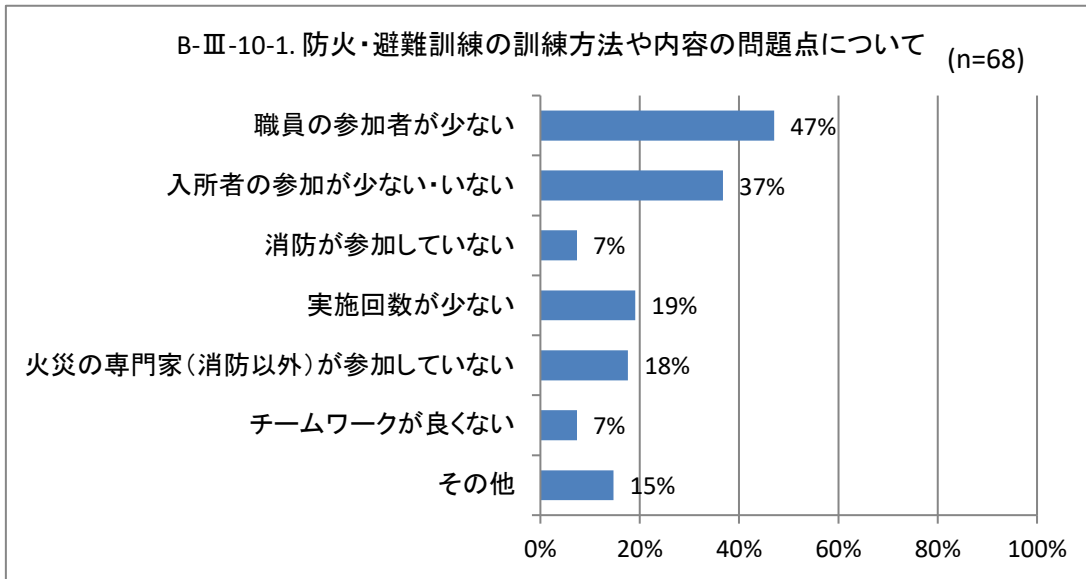


図 4.4 アンケート B Ⅲ-10-1 結果

#### 4. 4. 3 夜間の職員体制について

アンケート B の入所者の安全に対する職員の課題を尋ねる質問では、夜間の職員数が足りないことが 69%と一番割合が高い。(図 4.5)

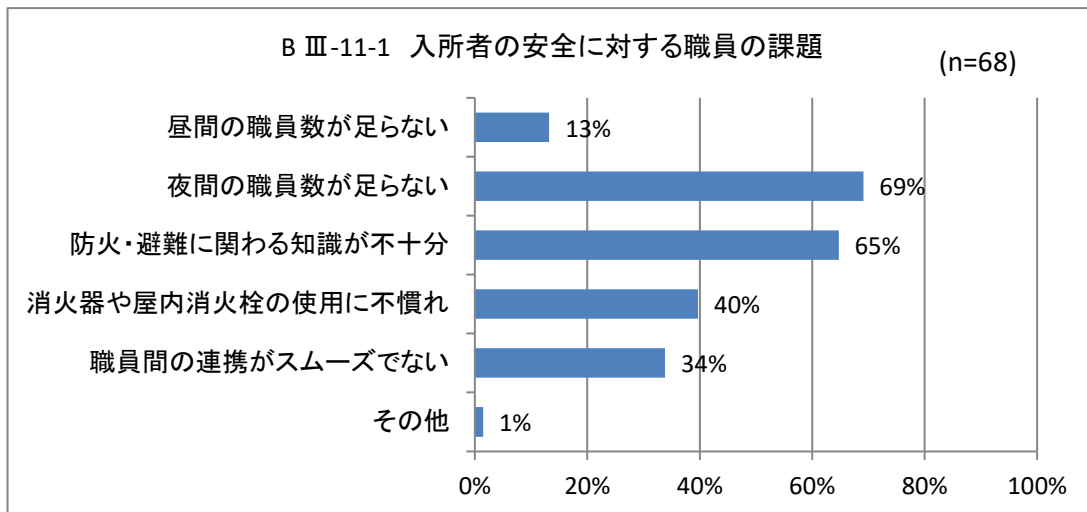


図 4.5 アンケート B Ⅲ-11-1 結果



#### 4. 5 施設の階数とアンケート結果の関係

アンケート A I-3-4 建物の階数についての質問に回答があった 70 件（表 4.4）を対象とし、図 4.8 のように建物の階数が高い順に並べて検討する。

表 4.4 アンケート A I-3-4 回答結果

階数	14	12	8	7	6	5	4	3	2	1
件数	1	1	2	4	5	4	16	30	6	1

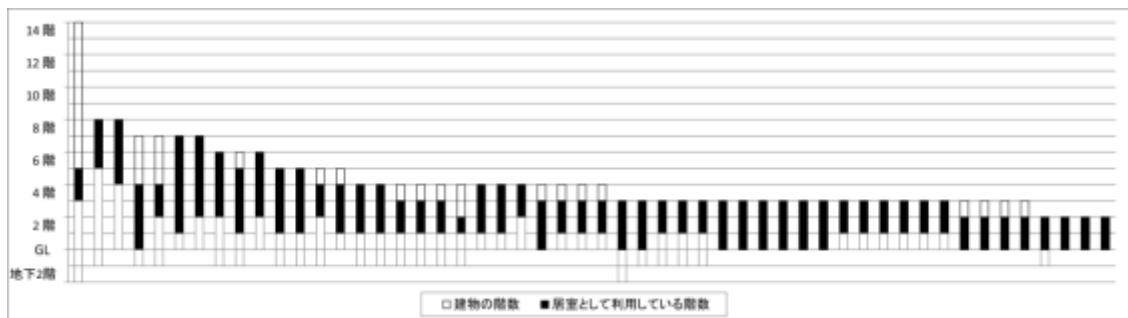


図 4.8 対象施設の建物の階数と居室として利用している階数

#### 4. 5. 1 消防設備・避難器具の設置状況

アンケート A I-3-6 の回答結果を示す。（図 4.9）

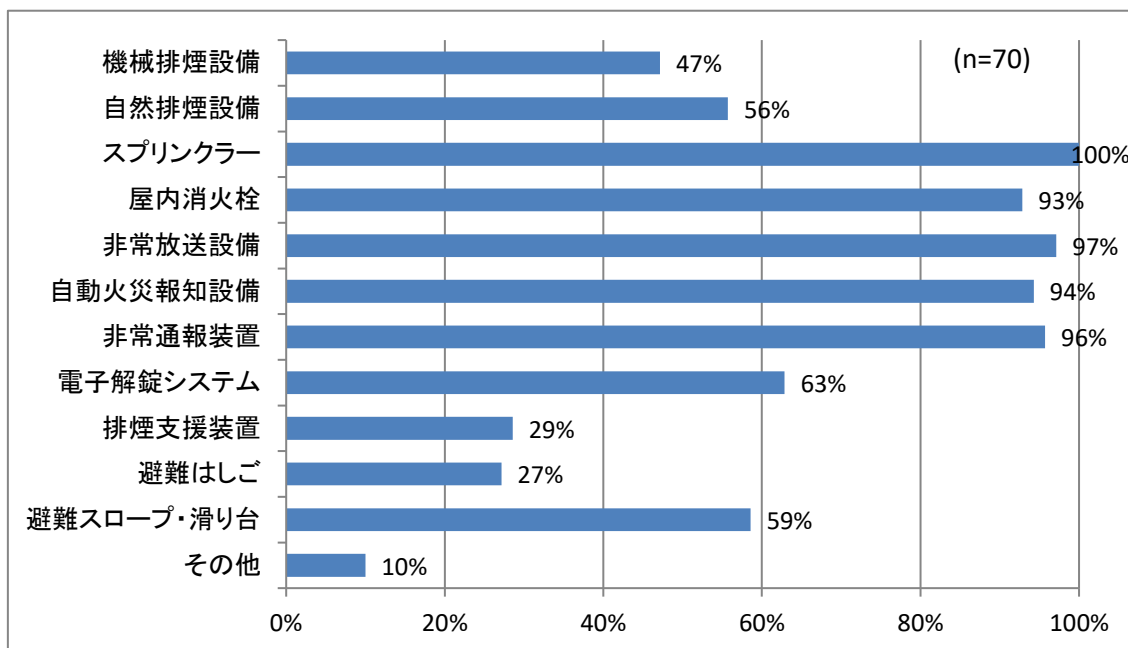


図 4.9 アンケート A I-3-6 回答結果

消防設備や避難器具は設置率が高いものが多く、設置の有無で比較検討できないので、設置率が 90% 以下の消防設備や避難器具について施設の階数と設置状況を検討した。

(1) 排煙設備

①機械排煙設備

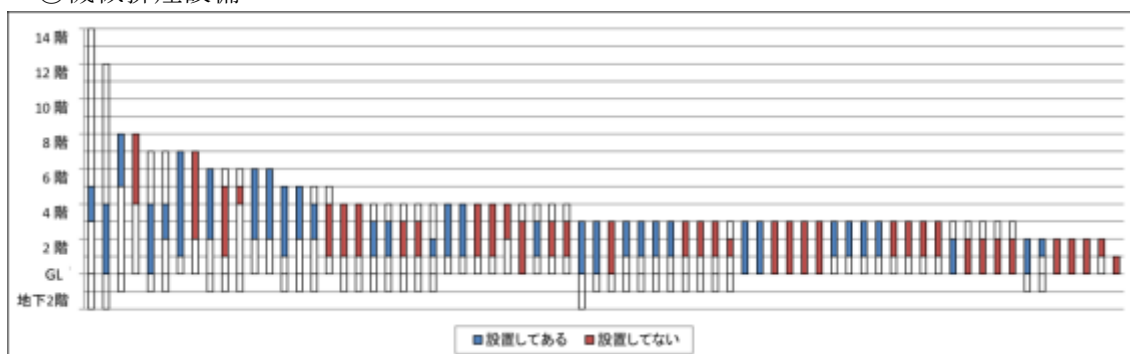


図 4.10 機械排煙設備の設置状況

5 階建て以上の施設では半分以上の施設が設置されている。

②自然排煙設備

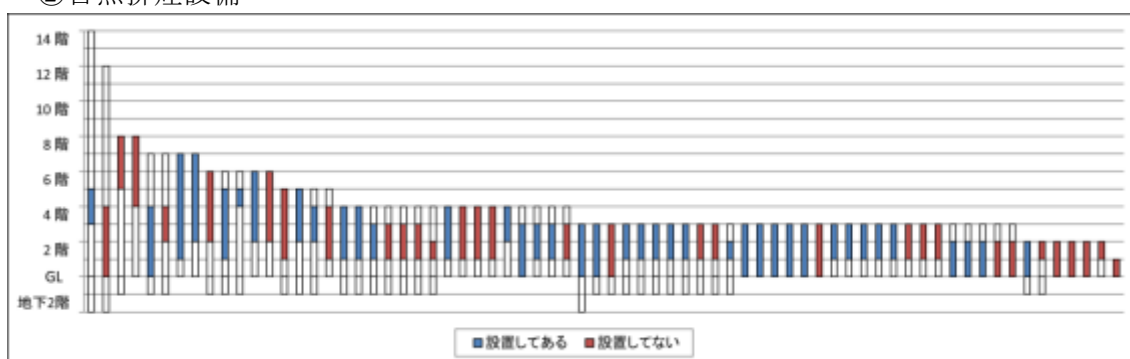


図 4.11 自然排煙設備の設置状況

3 階から 7 階建ての施設では半分以上の施設が設置されている。

③排煙設備

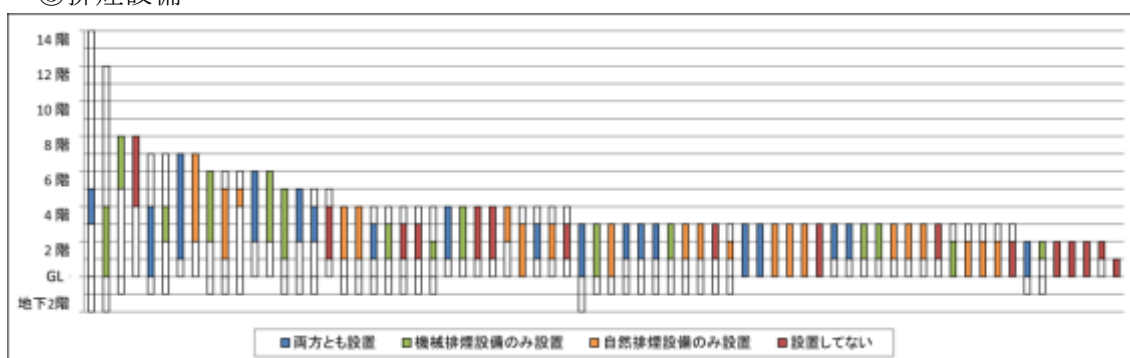


図 4.12 排煙設備の設置状況 (1)

機械排煙設備と自然排煙設備の設置状況を合わせると、両方とも設置してある施設が 18 件 (26%)、機械排煙設備のみ設置してある施設が 15 件 (21%)、自然排煙設備のみ設置してある施設が 21 件 (30%)、設置していない施設が 16 件 (21%) である。

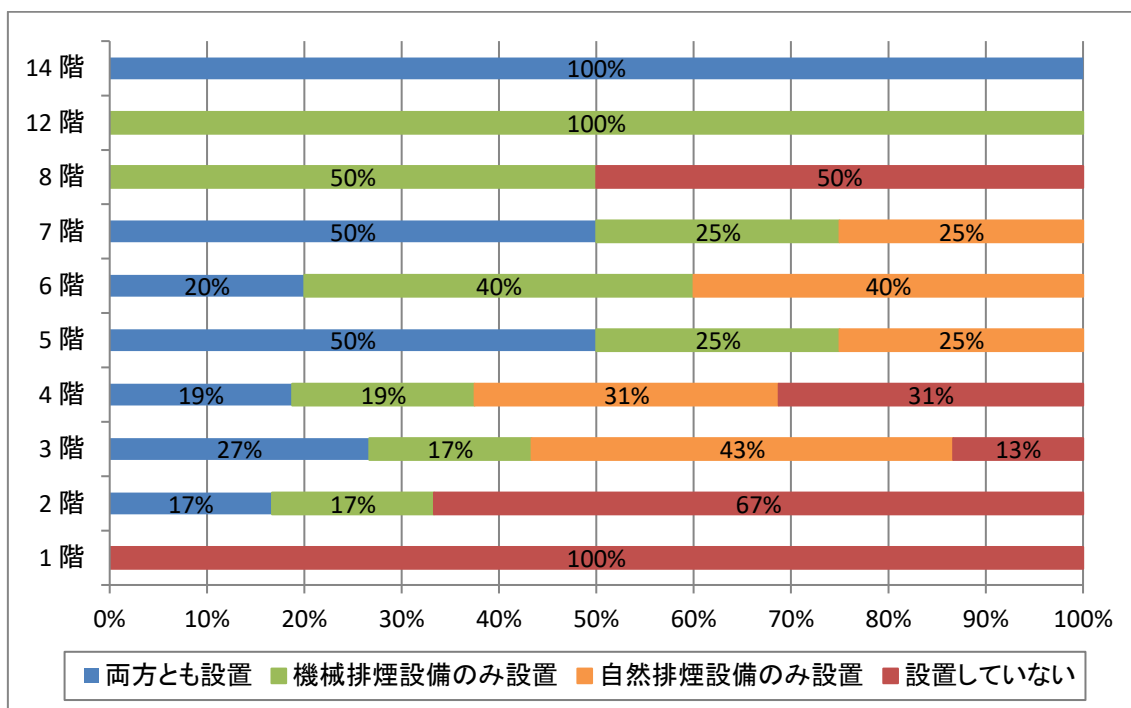


図 4.13 排煙設備の設置状況（2）

機械排煙設備のみ設置している施設と自然排煙設備のみの設置している施設を比較すると、5階から7階では同じ割合で、3階と4階では、自然排煙設備のみ設置している施設の割合が多い。

(2) 電子解錠システム

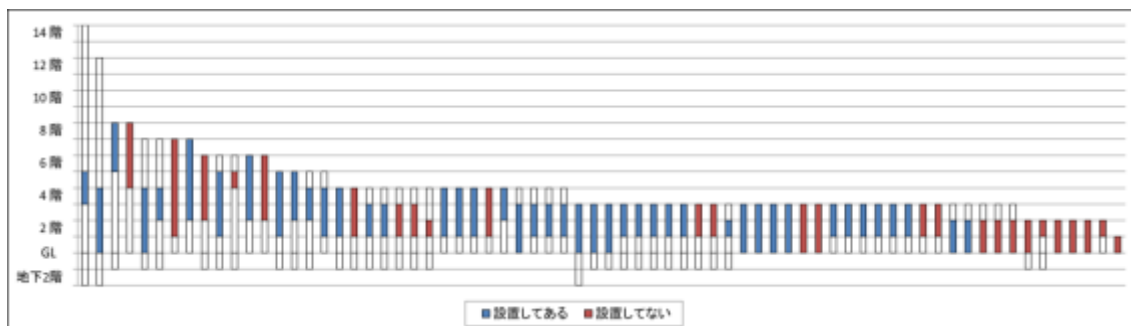


図 4.14 電子解錠システムの設置状況

電子解錠システムについては 2 階建て以下の施設については、全く設置されていないが、3 階建て以上の施設では、7 割の施設で設置されている。

(3) 避難はしご

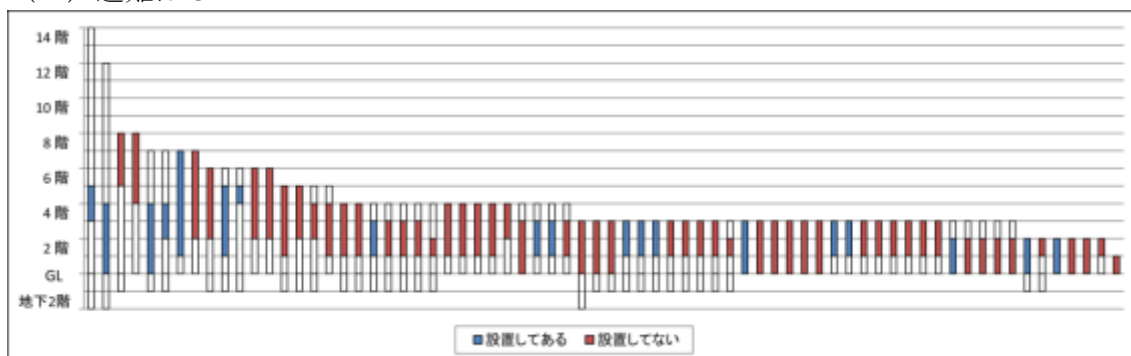


図 4.15 避難はしごの設置状況

(4) 避難スロープ・滑り台・らせん式滑り台

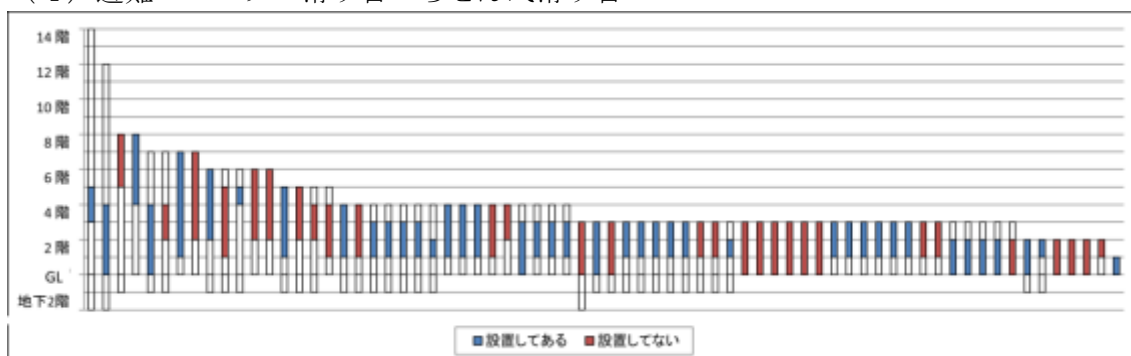


図 4.16 避難スロープ・滑り台の設置状況

#### 4. 5. 2 電子解錠システム設置の有無と防災意識の関係

電子解錠システムは、2階建て以下の施設では、全く設置されていないが、3階建て以上の施設では7割の設置している。電子解錠システムは法的に設置が義務付けられておらず、防災意識の差が設置の有無に反映している可能性がある。

3階建て以上の施設について、アンケートAの日常管理に関する結果を、電子解錠システム設置の有無で分けてまとめた。(図4.17) IX-6、IX-13-1、IX-16では電子解錠システムが設置してある施設の方が「はい」の割合が多くなったが、IX-11、IX-13-3では「いいえ」の方が多くなった。

IX-6.非常時の職員の役割分担及びマニュアルが整備されており、定期的に適正になるよう見直しを実施していますか				
	はい	いいえ		
設置	89%	11%		
未設置	63%	37%	(n=63)	

IX-11.近隣の福祉施設と共同で合同防災訓練を行っていますか				
	はい	いいえ	近隣に施設がない	無回答
設置	25%	68%	5%	2%
未設置	32%	63%	5%	0%

IX-13-1.利用者や職員が全員そろっていることの確認方法は決めていますか			
	はい	いいえ	無回答
設置	82%	18%	0%
未設置	79%	16%	5%

IX-13-3.火災時、公園や道路などの一時避難場所が決められていますか			
	はい	いいえ	無回答
設置	64%	34%	2%
未設置	79%	21%	0%

IX-16.自力での避難が困難な入所者の居室入口には、介助避難の表示の有無及び対応職員の明示を行っていますか		
	はい	いいえ
設置	41%	59%
未設置	32%	68%

図 4.17 電子解錠システムの有無によるアンケート結果の比較

#### 4. 5. 3 $\chi^2$ 検定

4. 5. 2と同じ質問の回答結果について $\chi^2$ 検定を行い、アンケートの回答と電子解錠システム設置の有無が関係しているかどうかを検討する。

IX-6.非常時の職員の役割分担及びマニュアルが整備されており、定期的に適正になるよう見直しを実施していますか			
	はい	いいえ	合計
設置	39	5	44
未設置	12	7	19
合計	51	12	63

IX-11.近隣の福祉施設と共同で合同防災訓練を行っていますか					
	はい	いいえ	近隣に施設がない	無回答	合計
設置	11	30	2	1	44
未設置	6	12	1	0	19
合計	17	42	3	1	63

IX-13-1. 利用者や職員が全員そろっていることの確認方法は決めていますか				
	はい	いいえ	無回答	合計
設置	36	8	0	44
未設置	15	3	1	19
合計	51	11	1	63

IX-13-3. 火災時、公園や道路などの一時避難場所が決められていますか				
	はい	いいえ	無回答	合計
設置	28	15	1	44
未設置	15	4	0	19
合計	43	19	1	63

IX-16.自力での避難が困難な入所者の居室入口には、介助避難の表示の有無及び対応職員の明示を行っていますか			
	はい	いいえ	合計
設置	18	26	44
未設置	6	13	19
合計	24	39	63

図 4.18 電子解錠システム設置の有無によるアンケートの結果の比較

観測度数 $O$ は図 4.19 の通りである。

IX-6.				IX-13-3.			
	はい	いいえ	合計		はい	いいえ	合計
設置	39	5	44	設置	28	15	43
未設置	12	7	19	未設置	15	4	19
合計	51	12	63	合計	43	19	62

IX-11.				IX-16.			
	はい	いいえ	合計		はい	いいえ	合計
設置	11	30	41	設置	18	26	44
未設置	6	12	18	未設置	6	13	19
合計	17	42	59	合計	24	39	63

IX-13-1.			
	はい	いいえ	合計
設置	36	8	44
未設置	15	3	18
合計	51	11	62

図 4.19 観測度数

期待度数 $E$ を計算した結果を図 4.20 に示す。

IX-6.				IX-13-3.			
	はい	いいえ	合計		はい	いいえ	合計
設置	35.6	8.4	44	設置	29.8	13.2	43
未設置	15.4	3.6	19	未設置	13.2	5.8	19
合計	51	12	63	合計	43	19	62

IX-11.				IX-16.			
	はい	いいえ	合計		はい	いいえ	合計
設置	11.8	29.2	41	設置	16.8	27.2	44
未設置	5.2	12.8	18	未設置	7.2	11.8	19
合計	17	42	59	合計	24	39	63

IX-13-1.			
	はい	いいえ	合計
設置	36.2	7.8	44
未設置	14.8	3.2	18
合計	51	11	62

図 4.20 期待度数の計算結果

$\chi^2$  値を以下の式で計算する。

$$\chi^2 = \sum \frac{(O - E)^2}{E}$$

表に自由度と有意水準 5% の時の  $\chi^2$  値、そして  $\chi^2$  値の計算値を示す。

表 4.5 自由度・ $\chi^2$  値 (有意水準 5%)・ $\chi^2$  値計算結果

	自由度	$\chi^2$ 値(有意水準5%)	$\chi^2$ 値(計算値)
IX-6.	1	3.841	5.59
IX-11.	1	3.841	0.26
IX-13-1.	1	3.841	0.02
IX-13-3.	1	3.841	1.19
IX-16.	1	3.841	0.49

IX-6.のみ、 $\chi^2$  値の計算値が有意水準 5% の時の  $\chi^2$  値を上回り、電子解錠システムが設置してある施設の方が、「非常時の職員の役割分担及びマニュアルが整備されており、定期的に適正になるよう見直しを実施していますか」という質問に対して「はい」と回答する割合が大きいと言える。

#### 4. 6 同じ質問に対する回答結果

アンケート A とアンケート B には同じ質問内容が 7 つ含まれている。(表 4.6・図 4.21)

表 4.6 同じ質問内容の質問番号対応表

質問	アンケートA	アンケートB
(1)	Ⅱ-5	Ⅲ-1
(2)	Ⅱ-6	Ⅲ-2
(3)	Ⅱ-7	Ⅲ-4
(4)	Ⅱ-8	Ⅲ-5
(5)	Ⅱ-9	Ⅲ-6
(6)	Ⅱ-10	Ⅲ-6-1
(7)	Ⅱ-15	Ⅲ-9

(1) 火災時、この施設の入所者の避難に不安を感じていますか  
 ①Yes  
 ②No

(2) 質問(1)で「①Yes」の場合、理由は何ですか？(○はいくつでも)  
 ①火災や避難についての知識が少ない  
 ②入所者に認知症や自力避難できない人がいる  
 ③夜間は著しく手薄になる  
 ④昼間も介護にかかる人が少ない  
 ⑤その他

(3) 夜間、何人スタッフが常駐すれば火災時の避難対応で安心と考えていますか？  
 [ 人 ]

(4) この施設の防火安全を相談したいときはどなたに相談されていますか？(○はいくつでも)  
 ①消防署  
 ②防火コンサルタント  
 ③施設長・園長  
 ④防火管理者・責任者  
 ⑤その他

(5) 消防計画書やこの施設独自の防火・避難マニュアルを作成していますか？  
 ①両方作成  
 ②消防計画書のみ作成  
 ③独自の防火マニュアルのみ作成  
 ④両方とも無い  
 ⑤その他

(6) 質問(5)の計画書やマニュアルの内容を理解していますか？  
 ①両方理解  
 ②消防計画書のみ理解  
 ③独自の防火マニュアルのみ理解  
 ④いずれも理解できてない  
 ⑤その他

(7) 避難限界時間を知っていますか？  
 ①Yes  
 ②No

図 4.21 重なっている質問の質問内容

#### 4. 6. 1 同じ職員が同じ質問に答えた回答

図の質問項目について、同じ職員が同じ質問に答えた結果を表 4.7 に示す。

表 4.7 同じ職員が同じ質問に答えた回答結果

質問内容	(1)		(2)					(3)		(4)					(5)		(6)		(7)							
	A	B	A					B					A	B	A	B	A	B								
			①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤							①	②	③	④	⑤			
回答結果	①	①	○	○			○	○			8	16	○	○			○	○			②	①	②	①	①	①
	①	①			○		○	○			5	6		○				○			①	①	①	③	②	②
	①	①	○	○	○		○	○			9	5	○		○		○	○			①	①	④	④	②	②
	①	①	○	○	○		○	○			1	10			○			○			①	①	①	①	②	②
	①	①	○	○			○				—	10	○	○	○						①	①	—	①	②	②
	②	①		—			○	○	○		5	10		○			○	○			①	①	①	①	①	①
	②	①		—				○	○		7	7	○	○				○			①	①	①	①	②	①
	①	①	○	○	○		○	○			—	10	○	○			○				①	③	①	③	②	②
	①	①	○	○			○	○			10	10	○	○			○				①	①	①	②	①	①
	①	①		—				○			4	4		○	○		○		○		③	①	③	①	①	②
	②	①		—				○			2	2	○	○			○	○			②	①	①	①	①	①
	①	①	○	○	○		○	○			8	8	○		○	○	○				②	②	②	②	②	①
	①	①	○	○			○	○	○		9	日中と同じ人数	○		○						②	②	②	②	②	②
	①	①	○	○	○		○	○			—	—	○		○		○				①	①	①	①	①	①
	①	①	○	○			○	○			6	8		○			○				②	②	②	④	②	②
	①	①	○	○			○	○			20	—	○				○	○			②	①	②	①	①	②
	②	①		—				○			10	3/階		○			○	○			①	①	①	①	①	①
	①	①	○	○			○	○			9	7		○	○		○	○			②	②	—	—	①	①
	①	①	○	○			○	○			30	20	○				○				②	②	②	②	②	②
	①	①	○				○				16	18		○	○			○			③	①	④	—	②	—
	①	①	○	○	○		○	○			—	6	○	○	○		○				①	①	①	①	①	①
	①	①	○	○			○	○			20	15	○				○				①	①	①	①	②	②
	①	①	○	○	○		○	○			18	—	○		○			○			①	①	①	①	②	①
①	①	○	○			○	○			8	7		○				○			①	①	③	③	②	②	
①	①	○	○	○		○	○			—	5	○	○	○	○	○	○			①	①	①	①	②	②	
①	①		○			○	○			10	10	○				○				①	②	①	②	②	①	
①	①		○			○	○			10	10	○				○				①	②	①	②	①	①	

表 4.7 について、同じ質問について同じ回答、異なる回答、どちらか無回答に分類した結果を表 4.8 に示す。

表 4.8 表の件数と割合

同じ回答	106件 (56%)
異なる回答	70件 (37%)
どちらか無回答	13件 (7%)

同じ質問に対し、同じ回答をしたのは 189 件中 106 件で、56%にとどまった。同じ質問 7 つに対して、全て同じ回答をした方は 27 人中 1 人だけである。

(1) の質問に対し、異なる回答をしている人は、全て、アンケート A では②と回答し、アンケート B では①と回答している。アンケート A は施設で、アンケート B は防火研修会で回答しており、研修会の方の方が入所者の避難に不安を感じるようだ。

#### 4. 6. 2 同じ施設で異なる職員が答えた回答

図 4.19 の質問項目について、同じ施設で異なる職員が同じ質問に答えた結果を表 4.9 に示す。

表 4.9 同じ施設で異なる職員が答えた回答

質問内容	(1)		(2)					(3)		(4)					(5)		(6)		(7)		
	アンケートの種類	A	A					B					A	B	A	B	A	B			
			①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤							①	②	③
回答結果	①①	○	○	○	○	○	○	○	○	9	—	○	○	○	○	○	○	○	①①	④④	②②
	①①	○	○	○	○	○	○	○	○	15	10	○	○	○	○	○	○	○	①①	①④	②②
	①①	○	○	○	○	○	○	○	○	15	10	○	○	○	○	○	○	○	①⑤	①—	②②
	①①	○	○	○	○	○	○	○	○	—	8	○	○	○	○	○	○	○	①②	①②	①②
	①①	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	①①	①④	③②
	①②	○	○	○	○	○	—	—	—	6	○	○	○	○	○	○	○	○	②①	②③	①①
	①①	○	○	○	○	○	○	○	○	10	7	○	○	○	○	○	○	○	①①	①①	①①
	①①	○	○	○	○	○	○	○	○	10	7	○	○	○	○	○	○	○	①③	①③	②②
	①①	○	○	○	○	○	○	○	○	9	4	○	○	○	○	○	○	○	②①	⑤①	①①
	①①	○	○	○	○	○	○	○	○	10	7	○	○	○	○	○	○	○	①⑤	①④	①—
	①①	○	○	○	○	○	○	○	○	—	4	○	○	○	○	○	○	○	①②	①④	②②
	①①	○	○	○	○	○	○	○	○	10	—	○	○	○	○	○	○	○	①⑤	①—	②②
	①①	—	—	—	—	—	○	○	○	20	10	○	○	○	○	○	○	○	①②	①④	①②
①①	○	○	○	○	○	○	○	○	20	—	○	○	○	○	○	○	○	①①	①①	①②	
②①	—	—	—	—	—	○	○	○	10	—	○	○	○	○	○	○	○	②⑤	②—	②②	

表 4.9 について、同じ質問について同じ回答、異なる回答、どちらか無回答に分類した結果を表 4.10 に示す。

表 4.10 表の件数と割合

同じ回答	37件 (35%)
異なる回答	54件 (52%)
どちらか無回答	14件 (13%)

(5) は職員が異なっても、同じ施設ならば同じ回答になるはずだが、同じ回答となったのは 15 件中 5 件だけであった。5 件とも、アンケート A、アンケート B の両方で ①と回答していて、消防計画書と独自の防火・避難マニュアル両方を作成している施設であり、防災意識が高い施設である。

#### 5. まとめ

実際に自衛消防訓練を見学した施設の状況とアンケートの調査結果は、異なっていた。同じ質問に対し、同じ回答をした方が、56%にとどまったことから、アンケートから実際の施設の状況を把握することは難しいようである。

施設の階数とアンケートの結果については、電子解錠システムの設置状況の有無で特徴を検証したが、アンケートの日常管理についての結果の差に反映しているとは、言い切れない。

- 6. アンケート
- 6. 1 アンケート票
- 6. 1. 1 アンケートA

## 高齢者福祉施設の防災対策に関する調査のお願い（施設情報用）

NPO 法人 日本防火技術者協会 老人福祉施設・学校教育施設の避難安全に関する研究会

急激な人口の高齢化を迎えて、高齢者福祉を担うさまざまな形態の施設が次々と建設されています。これとともない一度の火災で多数の死傷者が発生する事態が懸念され、NPO日本防火技術者協会では、社会安全・安心の確保のために真剣に火災安全の方策を考える必要があると考えています。

当NPO法人「日本防火技術者協会老人福祉施設・学校教育施設の避難安全に関する研究会」は社会福祉施設のより安全・安心のために、防火研修会の実施以外にも、出前講座や防火避難訓練の際に皆様の施設の実態ならびに訓練時のアンケートによってデータ収集を行い、具体的に皆様のご希望を把握し改善に役立てるための調査を皆様にご覧いただくことになりました。

業務の御忙しい中ご協力いただき誠に恐縮ですが宜しくお願い致します。

調査の結果はすべて統計的に集計し、個々の情報が表面に出て皆様にご迷惑をおかけすることは絶対にありません。ご面倒な調査をお願いして恐縮ですが、どうぞありのままを率直にお答えいただけますようお願いいたします。（研修会・講習会終了時に受付で回収したいと思います。）

本アンケートは、研修会・講習会の参加の有無にかかわらず、8月27日（月）までに、FAX：03-3387-5481（NPO日本防火技術者協会）宛てに返信いただければ幸いです。

### 【記入についてのお願い】

- 回答はほとんど、あてはまる番号に○を付けていただくようになっています。特記が無い限り、質問一つに○は一つです。
- あてはまる答えがないときは、「その他」という項目に○印をつけて、具体的な内容を余白にご記入下さい。

### 【1】 貴施設について

#### I-1 貴施設の名称・住所等について

1. 名称:	[ _____ ]	]
2. 住所: 〒 [ _____ ] [ _____ ]		]
3. 電話: [ _____ ] FAX: [ _____ ]		
4. E-mail アドレス: [ _____ ]		
5. 貴施設の開設年度: [昭和・平成 _____ ] 年		

#### I-2 貴建物（別棟も含む）の用途について

1. 貴施設には、特養以外に併設施設（医療・福祉施設以外にも、商業施設なども含んで）はありますか: [(1)Yes , (2)No]	
1-2. 併設施設がある場合、何が併設されていますか。併設施設を全て記載してください:	[ _____ ]

#### I-3 特養用途の建物の構造等について（複数棟ある場合は、最も主として使用している棟についてお答えください）

1. 建物の竣工年: [昭和・平成 _____ ] 年頃	
2. 建築構造: [(1)木造, (2)鉄骨造, (3)鉄筋コンクリート造, (4)その他（具体的に _____ )]	
3. 建物の延床面積: [ _____ m <sup>2</sup> ], 建築面積: [ _____ m <sup>2</sup> ]	
4. 建物の階数: [地上 _____ 階, 地下 _____ 階]	
4-2. そのうち、主として特養の居室として利用している階: [ _____ 階から _____ 階]	
5. 施設の建築形態: [(1)従来型, (2)ユニット型, (3)一部ユニット型併設, (4)その他（具体的に _____ )]	
6. 設置している防災設備・避難器具 (○はいくつでも):	
[ (1)機械排煙設備, (2)自然排煙設備, (3)スプリンクラー, (4)屋内消火栓, (5)非常放送設備, (6)自動火災報知設備, (7)非常通報設備, (8)電子解錠システム, (9)排煙支援装置, (10)避難はしご, (11)避難スロープ・滑り台・らせん式滑り台, (12)その他 ( _____ ) ]	
7. 中央付近に光庭（外部の吹き抜け）の窓がありますか?: [(1)Yes , (2)No]	



#### IV-2 出火機会の低減(2) 一放火及び失火の機会の低減について

1. 火気使用室(厨房、台所、湯沸かし室)等は、常に職員の目の行き届くところにありますか：〔①Yes、②No〕
2. 可燃物(可燃ゴミ、ダンボール、布など)が大量に放置されている場所はありますか：〔①Yes、②No〕
3. リネン及び可燃ゴミについては専用の保管スペースが確保されていますか：〔①Yes、②No〕  
3-1. それらは、処理手順が適切に定められ、実行されていますか：〔①Yes、②No〕
4. 寝具類及びカーテン等には、容易に着火しない素材(防炎物品や防炎製品)を用いたものを使用していますか：〔①Yes、②No〕
5. 建物内や敷地内は禁煙ですか：〔①建物と敷地全て禁煙、②建物内のみ禁煙、③禁煙でない(分煙、喫煙場所未決定など)〕  
〈上記で「②～③」を回答した場合お答えください〉  
5-1. 職員、入所者、訪問者の喫煙場所が決まっていますか：〔①Yes、②No〕  
5-2. 入所者の喫煙場所は、職員が常駐している場所に隣接していますか：〔①Yes、②No〕  
5-4. 入所者が喫煙する際は、職員が付き添うなど、職員の監視が行き届いていますか：〔①Yes、②No〕  
5-5. 灰皿には水を入れていますか：〔①Yes、②No〕  
5-6. 煙草の吸い殻を乾いたまま可燃物と一緒にせず、別にしてありますか：〔①Yes、②No〕
6. 入所者がライターなど着火源を居室に持ち込まないように、外出から帰った際など持ち物をチェックしていますか：〔①Yes、②No〕
7. ガスコンロや電気コンロ等、裸火の出る調理器具のある入所者の居室はありますか：〔①Yes、②No〕  
7-1. 「①Yes」の場合、その居室で入所者が調理することはありますか：  
〔①職員や家族等が立ち会って調理することがある、②入所者のみで調理することがある、③調理はしていない〕

#### 【V】 初期火災拡大の遅延について

1. 入所者の居室には、スプリンクラーが設置されていますか：  
〔①全居室に設置、②過半数の居室に設置、③約半数の居室に設置、④半数未満の居室に設置、⑤設置していない〕  
〈上記で「①～④」を回答した場合お答えください〉  
1-1. 上記で①～④を回答した場合、スプリンクラーのヘッド(吐出口)が、寝寝場所(ベッド等)の上に位置していますか：  
〔①Yes、②No〕  
1-2. 散水障害の物(背の高い家具類、パーティションなど)がスプリンクラーヘッド近傍にありますか：〔①Yes、②No〕
2. 石膏ボードや珪酸カルシウム板などの無機系の材料で壁や天井が作られていますか：〔①Yes、②No、③わからない〕
3. 壁紙は、建築基準法で定められた防火材料に相当するものを使っていますか：〔①Yes、②No、③わからない〕
4. 入所者の居室は、衣類等を収納する場所が規定されており、その収容量にも制限を設けていますか：〔①Yes、②No〕
5. 消火器の使い方について、職員は教育訓練を受けていますか：〔①Yes、②No〕
6. 消火器の設置場所は、容易に見つけることができますか：〔①Yes、②No〕
7. 廊下に、未収納のリネン類や、使わない椅子などを出していますか：〔①Yes、②No〕
8. 車いすやストレッチャーの一時保管収納場所に困っていますか：〔①Yes、②No〕
9. 季節的な内装品(夏場のすだれ等)の一時保管収納場所に困っていますか：〔①Yes、②No〕

#### 【VI】 煙炎防止について

1. 建物は増築されていますか：〔①Yes、②No〕  
1-1. 上記で「①Yes」の場合、増築部分との境は、壁や床及び防火戸等が設置されていますか：〔①Yes、②No〕
2. 既存の建物に隣接して、別の建物を建てましたか：〔①Yes、②No〕  
2-1. 上記で「①Yes」の場合、既存の建築物の開口部に防火戸などの処置が施されましたか：〔①Yes、②No〕

#### 【VII】 在館者の避難安全

##### VII-1 在館者の避難安全(1) 一早期の避難開始について

1. 火災情報を受ける制御盤はどこに設置されていますか：〔①設置されていない、②事務所、③その他( )〕  
1-2. 設置されている場合、各階の連絡に問題はありますか：〔①Yes、②No〕
2. 火災感知器の設置状況について教えてください  
2-1. 全ての階に設置されていますか(その階に1個でもあればYesで回答してください)：〔①Yes、②No〕  
2-2. 全ての入所者の居室に設置されていますか：〔①Yes、②No〕  
2-3. 全ての廊下に設置されていますか：〔①Yes、②No〕  
2-4. 全ての階段の最上部に設置されていますか(例：1～4階に通じる階段の場合、階段4階の天井部分)：〔①Yes、②No〕
3. 入所者の居室において、火災感知器の近くに家具やパーティションなどある部屋はありますか：〔①Yes、②No〕
4. 火災感知器の定期点検を実施し、正常に機能することを確認していますか：〔①Yes、②No〕

**Ⅵ-2 在館者の避難安全(2) 一避難経路の確保について-**

1. 入所者の状態把握や迅速ケアのため、各階の居室の中央付近に、職員が滞在する空間が配置されていますか：〔①Yes、②No〕

2. 廊下の幅は現状でも十分に広く、もっと狭くても良いと感じていますか：〔①Yes、②No〕

3. 廊下に対して居室はどのように配置されていますか：〔①中廊下型、②片廊下型、③島状、④その他( )〕

4. 階段室と廊下の間には前室がありますか：〔①Yes、②No〕

5. 避難時、エレベーターが利用できないことを知っていますか：〔①Yes、②No〕

6. 階段室は2箇所以上あり、そのうち少なくとも2つは平面的に対角線上にありますか：〔①Yes、②No〕

7. 各居室と廊下、階段、建物出入口の関係について教えてください  
 7-1. 2階以上の居室前の廊下は、別の方向(左右など)に伸びており、それぞれ別の階段に到達しますか：〔①Yes、②No〕  
 7-2. 行き止まりとなる廊下は存在しますか(廊下の末端に出入口や階段などが無い)：〔①Yes、②No〕  
 7-3. 通常の建物の出入口(玄関など)以外で、火災感知器と連動して解放する扉や窓はありますか：〔①Yes、②No〕

8. 2階以上の居室には、居室から直接出られるバルコニー(廊出し窓等設置)は付いていますか：〔①Yes、②No〕  
 <上記で「①Yes」を回答した場合お答えください>  
 8-1. バルコニーは、建物全周に渡って設置されていますか：〔①Yes、②No〕  
 8-2. バルコニーの手すりが低くて、危険と感じたことがありますか：〔①Yes、②No〕  
 8-3. バルコニーには、戸境壁などの通れない箇所がありますか：  
 〔①人が通れない部分がある、②車椅子が通れない部分がある、③すべての場所で通れる〕  
 8-4. 2階以上で代表的な階の居室数について：直接バルコニーに出られる〔 〕室、出られない〔 〕室  
 8-5. 1階の居室数について：直接屋外に出られる〔 〕室、出られない〔 〕室  
 8-6. 居室からバルコニー(1階は屋外)へ直接出られる窓は、日常は施錠されていますか：〔①Yes、②No〕  
 8-7. 「質問8-6」の窓は、非常時にはどのように解放しますか：  
 〔①火災感知器と連動し自動で、②職員の遠隔操作で一斉に、③職員がその場に来て手で、④その他〕

**Ⅵ-3 在館者の避難安全(3) 一避難の容易性について-**

1. 廊下等には段差がありますか：〔①段差は無い、②段差はあるが入所者の歩行には支障は無い、③段差がある〕

2. 車いすやストレッチャーでの避難者と、歩行避難者が同時に通行できる程度の廊下幅は常に確保されていますか：〔①Yes、②No〕

3. 入所者の居室の収納物は、避難上の障害にならないようになっていますか：〔①Yes、②No〕

4. 入所者の居室から廊下に出た場合、安全な場所へ方向をすぐに確認(認知)できるようになっていますか：〔①Yes、②No〕

5. 入所者の居室から安全な場所への避難経路は、誘導灯などで表示(誘導)されるシステムになっていますか：〔①Yes、②No〕

**Ⅵ-4 在館者の避難安全(4) 一避難誘導ならびに救助について-**

1. 職員が迅速に居室に入って避難誘導・救助できるよう、室内に障害物が放置されないようになっていますか：〔①Yes、②No〕

2. 火災発生時に、迅速に消防、近隣、休暇中の職員へ知らせるようなシステム及び体制になっていますか：  
 消防について：〔①Yes、②No〕、近隣について：〔①Yes、②No〕、休暇中の職員について：〔①Yes、②No〕

3. 火災時に消防とどのような連携をとるか、消防との話し合いは行われていますか：〔①Yes、②No〕

4. 非常時の対応について近隣との話し合いは行われていますか〔①Yes、②No、③災害時の応援協定を締結〕  
 4-1. 上記で「①③」の場合、どのような交流ですか：〔 〕

5. 消防が救助に来るまでなど、入所者を一時的に避難待機させる場所を建物内に確保していますか：〔①Yes、②No〕  
 5-1. 上記で「①Yes」の場合、そこはどこですか(〇はいくつでも)：  
 〔①バルコニー、②防火上有効な壁・防火戸等で区画された空間、③その他〕

6. 職員が適切に避難誘導できるように教育訓練が施されていますか：〔①Yes、②No〕

7. 歩行が困難な入所者、火災の加覚・認識が困難な入所者に対する、避難対策を考えていますか：〔①Yes、②No〕  
 7-1. 上記で「①Yes」の場合、その対策はマニュアルとして整備され、その内容が職員に周知されていますか：  
 〔①マニュアルが整備され周知、②マニュアルが整備されているのみ、③マニュアルは整備していない、④その他〕

8. 夜間において、避難誘導に必要な人数の職員が常駐していますか：〔①Yes( 名)、②No〕

#### 【Ⅳ】煙や火災への対応

##### Ⅳ-1 煙の外気への放出（排煙）について

1. 自然排煙の場合、排煙窓を塞ぐようなことはしていませんか：〔①Yes、②No、③自然排煙なし〕
2. 自然排煙の場合、排煙口を開閉するシステムの作動方法を職員等に周知していますか：〔①Yes、②No、③自然排煙なし〕

##### Ⅳ-2 煙や火災の閉じこめについて

1. 廊下と居室との間の壁には窓がありますか：〔①ない、②網入りのガラス窓がある、③網入の入ってないガラス窓がある〕
2. 廊下と居室の間にはどのような扉がありますか：  
〔①扉は設置されていない（カーテンやアコーディオンドアなど）、②自動的に閉まる扉、③自動的には閉まらない扉〕  
2-1. 上記で「②③」の場合、通常その扉はどのような状態になっていますか：〔①閉鎖状態、②開放状態、③その他〕
3. 廊下の途中に扉がありますか（常に閉まっているもの、火災時に閉まるものいづれでもかまいません）：〔①Yes、②No〕  
3-1. 上記で「①Yes」の場合、その扉は防火扉ですか：〔①はい、②いいえ、③様々ある、④わからない、⑤その他〕
4. 居室と廊下の間の扉は、ベッドのまま出入りできる幅があり、手を離しても長い間開放状態にできますか：〔①Yes、②No〕
5. 居室から出火した場合、廊下に煙が出ないような工夫がされていますか：〔①Yes、②No〕
6. 煙や火が拡大しないための対策について教えてください  
6-1. 建物内の間仕切り壁や、たれ壁の変更（位置を変えたり、穴を開けたり）をしていますか：〔①Yes、②No〕  
6-2. 上記で「①Yes」の場合、法令の規定を満たすように変更していますか：〔①Yes、②No〕
7. 階段やエレベータシャフトと、廊下や室との間の区画（煙を遮る性能を有する戸等）について教えてください  
7-1. 階段やエレベータシャフトに設置の戸やシャッター等は、煙感知器連動で閉鎖しますか：〔①Yes、②No〕  
7-2. 上記の戸やシャッターが閉鎖しようとした際に、閉鎖を妨げる障害物が無いことを確認していますか：〔①Yes、②No〕
8. 居室と居室、居室と他の空間との間の区画（炎を遮る性能を有する壁等）について教えてください  
8-1. 設置されている戸の閉鎖を妨げるものが置かれないようになっていますか：〔①Yes、②No〕

#### 【Ⅴ】日常管理について

1. 貴施設では、施設をあげて防火意識を常に持ち続ける努力をしていますか：〔①Yes、②No〕
2. 消灯時間から起床時間の間に居室周辺の巡回はありますか：〔①Yes（1日に 回）、②No〕
3. 夜間警備を警備会社や個人に委託していますか：〔①Yes（委託人数 人、時間帯： 時～ 時）、②No〕
4. 空き居室の扉や窓は施錠していますか：〔①すべて施錠、②窓は施錠しない、③扉は施錠しない、④その他〕
5. リネン室や倉庫などの扉は施錠していますか：〔①すべて施錠、②窓は施錠しない、③扉は施錠しない、④その他〕
6. 非常時の職員の役割分担及びマニュアルが整備されており、定期的に適正になるよう見直しを実施していますか：〔①Yes、②No〕
7. 貴施設では、マニュアルに無いことが生じた時の対応を防災訓練でしていますか：〔①している、②していない〕  
7-1. 上記で「①」の場合、どのようにしていますか？（ ）
8. 新人職員には防災教育を防災訓練時に行っていますか：〔①Yes、②No〕
9. 自衛消防審査会などへの継続した出場を実施していますか：〔①Yes、②No〕
10. 施設の約1km以内に、職員寮を含めて何人の職員が住んでいますか：〔 〕人
11. 近隣の福祉施設と共同で合同防災訓練を行っていますか：〔①Yes、②No、③近隣に福祉施設が無いため行っていません〕  
11-1. 上記で「①Yes」場合、近隣住民は参加していますか：〔①Yes（活動内容： ）、②No〕
12. 貴施設では、貴施設に延焼の危険を及ぼす可能性のある場所として、周辺地域の特定の場所を設定していますか（例「この工場が火災を起したら、施設にも火災の影響が来る可能性がある」など）：〔①Yes、②No〕
13. 避難後の対応について教えてください  
13-1. 利用者や職員が全員そろっていることの確認方法は決めていますか：〔①Yes、②No〕  
13-2. 上記で「①Yes」の場合、方法を教えてください。（ ）  
13-3. 火災時、公園や道路などの一時避難場所が決まっていますか：〔①Yes、②No〕  
13-4. 上記で「①Yes」の場合、貴施設では、職員に対してそこまでの誘導訓練を実施していますか：〔①Yes、②No〕  
13-5. 避難した入所者の受け入れ先は決まっていますか（近隣の特養との提携など）：〔①Yes、②No〕  
13-6. 避難した入所者のその後の支援方法（生活等）について、関連施設、近隣施設、福祉協議会、公的機関などと話し合いの場を持って、方法を決めていますか：〔①Yes、②No〕  
13-7. 避難後の、入所者の常用要や看護体制について決めていますか：〔①Yes、②No〕  
13-8. 被災後の復旧手順・体制を予め決めていますか：〔①Yes、②No〕
14. 入所者や入所者の家族へ、非常時の対応方法を説明し理解して頂いていますか：〔①Yes、②No〕
15. 比較的健康的な入所者をメンバーとして、自衛消防協力隊を編成していますか：  
〔①Yes、②No、③参加可能な入所者がいないので編成していません〕
16. 自力での避難が困難な入所者の居室入口には、介助避難の表示の有無及び対応職員の明示を行っていますか：〔①Yes、②No〕

## 6. 1. 2 アンケートB

### 高齢者福祉施設の防災対策に関する調査のお願い（講習会個人用）

NPO 法人 日本防火技術者協会 老人福祉施設・学校教育施設の避難安全に関する研究会

急激な人口の高齢化を迎えて、高齢者福祉を担うさまざまな形態の施設が次々と建設されています。これにともない一度の火災で多数の死傷者が発生する事態が懸念され、NPO日本防火技術者協会では、社会安全・安心の確保のために真剣に火災安全の方策を考える必要があると考えています。

当NPO法人「日本防火技術者協会老人福祉施設・学校教育施設の避難安全に関する研究会」は社会福祉施設のより安全・安心のために、防火研修会の実施以外にも、出前講座や防火避難訓練の際に皆様の施設の実態ならびに訓練時のアンケートによってデータ収集を行い、具体的に皆様のご希望を把握し改善に役立てるための調査を皆様にお願ひすることになりました。

業務の御忙しい中ご協力いただき誠に恐縮ですが宜しくお願ひ致します。

調査の結果はすべて統計的に集計し、個々の情報が表面に出て皆様にご迷惑をおかけすることは絶対にありません。ご面倒な調査をお願ひして恐縮ですが、可能な範囲で結構ですのでどうぞありのままを率直にお答えいただけますようお願いいたします。（研修会終了時に受付で回収したいと思います。）

#### 【記入についてのお願い】

- 回答はほとんど、あてはまる番号に○を付けていただくようになっています。（特記が無い限り、質問一つに○は一つです。）
- あてはまる答えがないときは、「その他」という項目に○印をつけて、具体的な内容を余白にご記入下さい。

#### 【I】 勤務先施設について

##### I-1 勤務先施設の名称・住所について

1. 名称： [ _____ ]
2. 住所：〒 [ _____ ] [ _____ ]

#### 【II】 このアンケートのご回答者の方について

1. お名前： [ _____ ]
2. 役職： [①施設責任者、②防火管理者・責任者、③施設職員（②以外の事務職・介護職など）、④その他]
3. 現在の業務の勤続年数と1日の平均勤務時間： [この施設に勤続（ _____ 年）、平均勤務時間（ _____ 時間/日）]
4. 防火・避難に関する“勉強会や研修会”へ参加したことがありますか（勤務施設内外にかかわらず）： [①Yes、②No] <上記で「①Yes」を回答した場合お答えください>
4-1. どの程度参加しましたか： [過去1年間で _____ 回、今までにトータルで _____ 回程度]
4-2. 最も最近に参加した勉強会・研修会を評価すると何点になりますか： [100点満点で _____ 点] 良かった点： [ _____ ]
悪かった点： [ _____ ]
5. 防火・避難に関する“訓練”へ参加したことがありますか（勤務施設での実施に限定）： [①Yes、②No] <上記で「①Yes」を回答した場合お答えください>
4-1. どのような訓練に参加しましたか： [①職員だけの訓練、②健康な入所者を含めた訓練、③その他]
4-2. どの程度参加しましたか： [過去1年間で _____ 回、今までにトータルで _____ 回程度]
4-3. 最も最近に参加した訓練を評価すると何点になりますか： [100点満点で _____ 点] 良かった点： [ _____ ]
悪かった点： [ _____ ]

このページは、今日の講習会の前に回答してください

【Ⅲ】 勤務施設での防火・避難について

1. 火災時の、入所者の避難に不安を感じていますか： [①Yes、②No]
2. 質問1で「①Yes」の場合、理由は何ですか？ (〇はいくつでも)： [①火災や避難について自分の知識が少ない、②入所者に認知症や自力避難できない人がいる、③夜間は著しく手薄になる、 ④居間も介護にかかっている人が少ない、⑤その他]
3. 勤務先施設の火災安全 (出火防止や入所者の避難など) の維持について、どのように思っていますか？ [①非常に困難、②やや困難、③やや容易、④非常に容易]
4. 夜間、何人スタッフが常駐すれば火災時の避難対応で安心と考えていますか？： [ 人]
5. この施設の防火安全を相談したいときはどのようにしていますか？ (〇はいくつでも)： [①消防署に相談、②防火コンサルタントに相談、③施設責任者に相談、④防火管理者・責任者に相談、⑤その他]
6. 消防計画書やこの施設独自の防火・避難マニュアルを作成していますか？： [①両方作成、②消防計画書のみ作成、③独自の防火マニュアルのみ作成、④両方とも無い、⑤わからない、⑥その他] <上記で「①～③」を回答した場合お答えください> 6-1. その計画書やマニュアルの内容を理解していますか？： [①両方理解、②消防計画書のみ理解、③独自の防火マニュアルのみ理解、④いずれも理解できてない、⑤その他]
7. 火災時において、火災発生連絡の発信後や、火災発生の連絡を受信した後、あなたはまず何をしますか？ [①消火、②入所者の避難支援、③他職員への連絡、④その他]
8. 模型を用いた想定訓練 (FIG) を知っていますか： [①FIGを使用した訓練を行ったことがある、①知っている、②知らない]
9. 避難限界時間を知っていますか： [①Yes、②No]
10. 防火・避難訓練では、訓練方法や内容の問題点 (10-1 参照) を、あなた自身は見つけることが出来ましたか： [①Yes、②No] 10-1. 上記で「①Yes」の場合、それはどのような問題点ですか (〇はいくつでも)： [①職員の参加者が少ない、②入所者の参加が少ない・いない、③消防が参加していない、④実施回数が少ない、 ④火災の専門家 (消防以外) が参加していない、⑤チームワークが良くない、⑥その他]
11. 防火・避難訓練では、入所者の安全の課題 (11-1～3 参照) として、あなた自身が分かったことはありましたか： [①Yes、②No] <上記で「①Yes」を回答した場合お答えください> 11-1. 職員の課題 (〇はいくつでも)： [①居間の職員数が足りない、②夜間の職員数が足りない、③防火・避難にかかわる知識が不十分、 ④消火器や屋内消火栓の使用に不慣れ、⑤職員間の連携がスムーズでない、⑥その他] 11-2. 入所者の課題 (〇はいくつでも)： [①火災の認知 (危険性の認知) 力が不十分、②移動能力 (歩行、車いす等で避難する移動能力) が不十分、 ③避難完了後に勝手に移動してしまう、④身体状況や医療機器の関係で居室から避難させられない人がいる、 ⑤その他] 11-3. 施設建物の課題 (〇はいくつでも)： [①居室からバルコニーに直接出られない・バルコニーが無い、②居室と廊下の間の扉にすき間がある、③居室の扉が狭い、④廊下は車いすやストレッチャーで避難するには狭い、⑤居室のある階に一時的に避難する場所が無い、 ⑥その他]
12. 今回の講習会では、どのような内容の話題を期待しますか？ [ ]















施設	IX																						
	8	9	10	11-1			12	13-2							13-3	13-4	13-5	13-6	13-7	13-8	14	15	16
	1	2	1	2	3	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	3	1	2	
1	1	1	0	1																			
2	1	1	9	1																			
3	1	1	10	1																			
4	1	1	10	1																			
5	1	1	26	1																			
6	1	1	2	1	1																		
7	1	1	1	1	1																		
8	1	1																					
9	1	1	20	1																			
10	1	1	5	1																			
11	1	1	14	1																			
12	1	1	11	1	1																		
13	1	1	0	1	1																		
14	1	1	1	1																			
15	1	1	2	1																			
16	1	1	3	1																			
17	1	1	8	1																			
18	1	1	5	1																			
19	1	1	0	1																			
20	1	1	2	1																			
21	1	1	10	1	1																		
22	1	1	30	1																			
23	1	1																					
24	1	1	20	1																			
25	1	1	4	1																			
26	1	1	12	1																			
27	1	1	0	1																			
28	1	1	1	1																			
29	1	1	9	1																			
30	1	1		1																			
31	1	1		1																			
32	1	1	15	1	1	二次避難誘導、保護																	
33	1	1	11	1																			
34	1	1	6	1																			
35	1	1	40	1																			
36	1	1	10	1																			
37	1	1	5	1																			
38	1	1	40	1																			
39	1	1	15	1																			
40	1	1	5	1																			
41	1	1	18	1																			
42	1	1	1	1	1																		
43	1	1	30	1																			
44	1	1	10	1																			
45	1	1	2	1																			
46	1	1	20	1																			
47	1	1		1	1	総合防災訓練																	
48	1	1	1	1																			
49	1	1	2	1																			
50	1	1		1																			
51	1	1	17	1	1																		
52	1	1	8	1																			
53	1	1	1	1																			
54	1	1	2	1																			
55	1	1	10	1																			
56	1	1	0	1																			
57	1	1	40	1																			
58	1	1	28	1																			
59	1	1	10	1																			
60	1	1	10	1																			
61	1	1	1	1	1	避難誘導																	
62	1	1		1																			
63	1	1	0	1	1	避難誘導																	
64	1	1	30	1																			
65	1	1	10	1	1																		
66	1	1	14	1																			
67	1	1		1																			
68	1	1	0	1																			
69	1	1	15	1																			
70	1	1	0	1																			
71	1	1	50	1	1	救護活動																	
72	1	1	0	1																			
73	1	1	30	1																			
74	1	1	4		1	炊き出し訓練																	

6. 2. 2 アンケートB

職員	II																					
	2				3				4				4-1		4-2							
	1	2	3	4	年	日	1	2	年	全	100	良かった点		悪かった点		5	4-1	4-2				
1	1			3	8	1		3	10		80 マニュアル作成手順の考え方がわかりやすく					1	2	1	2	3	1	2
2	1			12	8	1		2	6		80 防火管理者としてのモチベーションアップにつながった					1	1				12	20
3		1		2	8	1			2		90 事業継続(3日間)でなすこと	マニュアル作りが遅々としていて進まない					1	1			12	2
4		1		3	8	1										1	1			4	6	
5	1			7	8	1										1	1			12		
6	1			7	8	1										1	1			12	30	
7	1			8	9	1		2	7	90						1	1			6	30	
8		1		5	8	1										1	1			3	10	
9		1		3	8	1										1	1			12	37	
10		1		5	8	1										1	1				1	
11		1		21	8	1		1	5							1	1			6		
12		1		14	8	1		1			80 実際に防災訓練が出来たこと	他にも訓練があったが、できなかったこと					1	1				5
13			1	2	8	1		1			90 具体的な資料					1	1			12		
14		1		24	8	1										1	1			3	10	
15		1		0	9	1										1	1			1	1	
16	1			9	8	1										1						
17		1		15	8	1										1	1			6	100	
18		1		6	8	1										1	1			4	20	
19			1	8	8	1		4	20		80 講師が専門家の方で話もわかりやすかった	時間がやや長い					1	1			12	100
20	1			22	8	1		2								1	1			3		
21	1			15	9	1		3								1		1	1			
22			1	10	8	1		2	10		85 消防署の主催であり、具体的で体験型でわかりやすかった					1	1	1	1	15	100	
23		1		25	8	1										1		1		12	30	
24		1		11	8	1		1	2		70 BCP研修(グループ)であったので他の施設等の現状を確認 でき良かった	3から4時間の短時間であり、重要な内容であるので 何回かに分けて実施してもよいと思う					1	1			10	
25	1			5	8	1		2			70 夜間防災のヒントが少し理解できた	キーポイントを決めて具体的に簡単な講習が良い					1	1	1	1	13	50
26		1		3	8	1		1	5		95 実際に消火・煙避難等の訓練が行えたこと					1	1			12	36	
27	1			2	8	1		1	1	100	100 火災発生の仕組み、夜間勤務における防災対策	特養中心となってしまっていること					1	1			12	30
28	1			4	8	1		1	4	70						1	1			6	20	
29		1		3	8	1										1	1				1	
30		1		2	8	1		2	2							1	1			3	5	
31		1		1	9	1		2	2		80 設備の知識が増えた					1	1			1	1	
32	1			15	8	1		4	16		80 防災対応の再認識及び新しい情報の取得が出来た	小規模の研修会だったため					1	1			12	150
33		1		4	8	1		1	3		80 火災の恐ろしさを再認識したこと					1	1			10	30	
34	1			9	11	1		1	1							1	1			4	15	
35			1	7	8	1		0	3							1	1	1		12	70	
36	1			5	8	1		2	70							1	1			12		
37	1			4	8	1		0	1							1	1			3	10	
38	1			10	9	1		2	4	90	90 実際にBCPを作成する流れを学んだ					1	1			2	20	
39	1			11	8	1		2	6							1	1			10		
40		1		2	8	1										1	1			1	1	
41		1		9	8	1		1	3	90	90 東日本大震災で実際に被災された施設の方の話がきけた点					1	1			6	30	
42		1		12	8	1										1	1			130		
43		1		5	10	1		1	1	100						1	1			3	10	
44		1		2	8	1		2	5	50						1	1			12	20	
45		1		3	8	1										1	1			7	10	
46		1		4		1										1	1				2	
47		1		21	8	1		2	80							1	1			17	250	
48	1			3	8	1		5	5	80						1	1			12	30	
49		1		1	8	1		1	1	70						1	1			3	3	
50	1			6	8	1		12	60	80						1		1		12	60	
51	1			3	9											1		1		10	20	
52	1			5	8	1		3	5							1				3	10	
53	1			11	8	1		2								1	1			12	130	
54	1					1										1	1			0	3	
55		1		5	8	1										1	1			2	10	
56		1		7	8	1		3								1	1			10	50	
57		1		4	8	1										1	1			3	15	
58		1		2	8	1										1	1			5		
59		1		22	8	1		2	5							1	1			12		
60	1			2	8	1		3	4							1	1			2	4	
61		1		9	9	1		1	1	50						1	1			12	30	
62		1		3	10	1		4	10	80						1	1			3	8	
63		1		2	9	1		3	6	70						1	1			12	15	
64		1		2	8	1										1	1			10	12	
65		1		19	9	1		3	10	80						1	1					
66	1			5	13	1										1	1			1	7	
67	1			10	8	1		2	3	90						1	1			12	12	
68		1		9	1	1		2	50							1	1			10	30	

		II	
職員		4-3	
	100	良かった点	悪かった点
1	50	各個人の行動が実際の動きと違う動きが出てくるのがわかる	
2	70	マニュアルの再確認	
3	80	地域との合同訓練	緊張感が不足
4	80	地域全体での防災訓練	
5	60	一連の流れや動きは他施設含めて周知できている	マニュアル通りの訓練のため、イレギュラーな対応に弱いと思われる
6	50		危機感がない
7	90		
8	75	ユニット内の訓練(避難誘導)直後の反省会が良かった	
9			
10		消防署で訓練を行った。どのように評価して良いかわからない。	
11	50	各担当の役割はおおむね把握している	マニュアル通りにしか動けない職員が多数いる
12	50	訓練をしたことで、施設での火災が危険だということが分かった	少し職員間で真剣味がない
13	90	多くのスタッフが参加できた	ストーリーが決まっていた
14	80	本部機能放送(マニュアルがあるので)	人員点検報告
15	50		
16			
17	60	年一回大規模災害訓練(炊き出し・水が止まった時の対応)	勤務の都合上訓練に同じ職員が参加する形になってしまった
18	60		
19	90	毎月やっているので利用者が慣れている	職員は年に一回しか当番が回ってこないこと
20	50	何度も行っているため動きがスムーズ	緊張感がない
21			
22	60		
23	50	実職員が協力的、施設長が熱心	マンネリ化
24			訓練を計画・実施する担当であり、ほとんどの訓練を参加しているが内容が消火訓練となってしまうことが多い。(参加人数の都合等で)
25	60		
26	70	利用者がどの程度自力で避難が出来るのか確認できた	職員の意識レベルが低いことがわかった
27	80	今までにない避難経路にして訓練した(違う場所からも避難できることの周知)	決まった入所者の参加となってしまう
28	80		
29	50	人の動き声掛けなど実践で体験できた	緊張感はなかった
30	20	実際に2号消火栓の放水が体験できたから	ホースの持ち方なども少し指示が細かくあるとよかった
31		避難マニュアルの確認が出来た	
32	50	火災想定を半年ぶりにやったので色々と職員に気づきがあった	疑問点が初参加者より色々出た。マニュアルや内容の伝達が十分でない。
33	70		改善の余地がある
34	60		
35	65		
36	40	消火栓などを実際に扱えた	全員参加が出来ない
37	60	ある程度マニュアルに沿ってスムーズに動いていた	真剣さが足りない
38	80	大規模な地震を想定した訓練を計画できた	
39	60		
40	40	消火器操作をやった	職員だけだった。避難訓練無。
41	60	時間内(5分程度)におおよそ避難できていた。	訓練時に他の業務をしている職員がいた。
42		通報訓練で本部にて非常放送を経験できたことは良かったと思う	
43	65		
44	50	利用者も職員も落ち着いて行うことが出来た	地震発生想定だったので地震の発生とその後の様子が上手く利用者・職員に伝わらない
45			
46	20		
47	90	図上で職員自身に考えてもらう点	基本的な事がわからず職員一人一人のレベルがちがう
48	50		定期的な訓練になりがち
49	80		
50	80		
51			
52			
53	90	防災の日。多数の参加者があった	
54			
55	30		利用者さんの参加なし。実際に動くのは担当者のみなので
56	70	地域の方と共同訓練	地域の方にはあまり入所者への抱りできない
57	70	他職員への指示がしっかり出せた	訓練と思っしまい周囲への伝達をしっかりと行わなかった
58	60	消火栓使用。使用方法レクチャー。	参加人数が少ない。
59	50	職員間でサポートし合っていた点	緊張感がない。職員の意識レベルがバラバラな点
60	80	少しずつではあるが、積極的に参加するようになってきた	職員の意識の低さ
61	70	あまり参加できる職員や警備員にも参加してもらえた	もっと回数を行ってもらわないと動けないこと
62	50	職員への意識付けになった	時間と人手が少なく中途半端になってしまった
63	60	この時のメンバーは新人ではなかったので建物の設備の場所をよく分かっていた	訓練がだらけてしまった
64	60	夜間想定のため人数少なく指示を出しやすかった	避難にあたる人数が少なく時間が掛かる
65	80	大きな声、指差し確認	消防隊員の指摘。職員間のコミュニケーションに丁寧語の必要はない。所持品に軍手を加えた方がよい。
66	50		
67	40		実際に即していない
68	85	新人に消火器の使用方法を具体的に考えることが出来た	本物を使用できず水消火器だった



	III
職員	12
1	基本的なマニュアル手順及び内訳
2	
3	事例にみる教訓と防火対策
4	火災時の危険、対応策
5	施設の防災訓練に対する意識向上
6	
7	
8	
9	
10	他の施設では、どのようなマニュアルを作成されているのかを学びたい。また、どのようなマニュアルが良いとするかも学びたい。
11	
12	
13	図上訓練
14	夜間防火マニュアル
15	
16	
17	夜間の避難誘導・防災マニュアルの活用方法など
18	
19	
20	
21	夜間での避難訓練方法
22	
23	
24	少人数で可能な安全確保
25	
26	職員の具体的な訓練方法
27	夜間の防災マニュアルの作成ポイント
28	
29	
30	今年は絶対避難マニュアルを作成するのでそれに具体的に役立つ知識や考え方
31	
32	現状の内容の再確認及び情報の取得
33	
34	
35	
36	実務上の行動、計画訓練の方法を再検討
37	
38	
39	
40	津波への対応
41	入居者の避難に不安を感じていますので、少しでも解消できればと。
42	初めての参加なのですべてを期待してます
43	
44	
45	
46	
47	
48	
49	
50	
51	
52	
53	
54	
55	
56	
57	
58	
59	
60	
61	
62	
63	
64	
65	
66	
67	
68	

## 7. 参考文献

- ・特定非営利活動法人日本防火技術者協会  
<http://www.jafpe.or.jp/>
- ・近代消防 2011年 06月号 もし火災が発生したら  
～福祉施設火災における職員の対応～
- ・戸張 彩香：東京都における認知症高齢者グループホームの現状と防火対策に関する研究，2012
- ・厚生労働省－要介護度認定  
[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi\\_kaigo/kaigo\\_koureisha/nintei/index.html](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/nintei/index.html)
- ・総務省消防庁－平成24年版 消防白書  
<http://www.fdma.go.jp/html/hakusho/h24/h24/index2.html#huzoku>
- ・消防法施行令  
<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S36/S36SE037.html>
- ・特別養護老人ホームの設備及び運営に関する基準  
<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/H11/H11F03601000046.html>
- ・指定介護老人福祉施設の人員、設備及び運営に関する基準  
<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/H11/H11F03601000039.html>